

文芸

俳句

コシテナの垣根のごとき春の駅
池田 逸子
春月や明日の作業衣揃へやる
伊藤 敬子
嫁しき娘の忘れ難や風に当り
今関満喜子
立春や少しふくらむ蕾かな
魚地 照子
十戸にも足らぬ集落梅真白
江森 悦子
うららかや岸に釣舟もやいおり
大谷 武彦
泡一つ吹いて小沼の水温む
川島 孝夫
水温む水泡一つ鯉動く
川島 通則
藪椿咲きし空堰夢のあと
向後 寛
逆縁の母御の背へ余寒風
越川せつ子
節伸しミニが似合ふよ土筆の子
小松 藤男
忠魂碑仰ぐ人なく下萌へる
佐瀬 輝夫
浅蜷け仕立てりや聞くゆ貝の唄
宍倉 道子
川底の石ゆらゆらと水温む
鈴木とし子
温む水下校の子等の秘密基地
鈴木 利子

朝市の声も匂ひも凍りにけり
玉虫 栗扇

水温む川面に映える空の青
土屋美枝子

水温む魚釜をこぼれる光りかな
土屋 義昭

語らひの瞳寄せ合ひ春の宵
戸村 静葦

水温む釣り人戻りし栗山川
西崎さち子

春一番帽子飛して行きにけり
早川 勇

短歌

循環バスの回数券求めしも
歯医者通ひに使ひ果つるや
青木 秀子
冬日照る池の面を惶めかせ
玩具のやうな鴨の寄り来ぬ
八角 三枝
正月を過ぎて二月の声聞けば
夫の逝きたる今日近し
吉岡 信子
新設の羽田空港へつづく道
松の並木のまだまだ小さし
西山満里子
桃色の小さき花卉の花椿
社の森に楚楚と咲きみつ
鈴木まさ子
少しだけ贅沢せむと塗り箸を
旅の記念に購ひてきぬ
田崎 尚美

スーパリーの店員寄り来て吾の見る
魚を値引くと頼り言ひたり
押尾 輝子
親友の病よくなり手造の
ひなの人形送られてきぬ
平山 芳子
流れゆく雲間に出てし望月は
枯田の面を一瞬照らす
芹川 初子
卒業の間近となりし六年生
皆それぞれに顔賑まりきぬ
島田ますみ
北風の吹きすさびつぐ二月はや
河津桜は咲き初めたり
斉藤つね子
.....
老ひし梅枝先までも花いっぱい
まだまだ吾も眉と紅引く
越川 福子
宝石に用なきわれと思ひつつ
女ごころがカタログ開く
高梨 キヨ
水温み風の浜辺に子等燥ぎ
寄せては返す波に戯る
伊藤 定男
子には子の未来ありやばうなずきて
緑り返し読む短き便り
越川 義則
冬寒むの日々を過して思う
らん春のぬくもり早く来てよと
鈴木 益郎
あたたかき御飯に落味噺そえにけり
ひそかに祝うわが誕生日
土屋 好

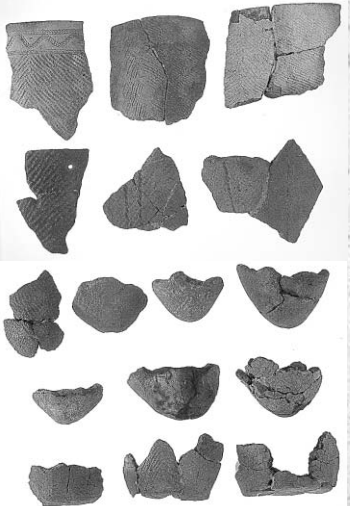
こうほう博物館 37

ここだけの縄文土器

平成五年から平成十年まで発掘調査された篠本遺跡群の中で、城山遺跡から変わった縄文土器がまとまって出土しました。それは縄文を施していたり、無文であったり、そして底部は丸かったり、少し尖り気味であったり、また平底もありました。尖った底があった所から、早期特有の土器でしたが、類例が分かりませんでした。そこで縄文早期に詳しい研究者に当たったところ、早期の中頃のものとは分かりました。

それは今から八千年前の縄文時代早期前葉に、東日本でも多く作られた、縄目文様を主体とした土器群の最後を飾る、花輪台式と呼ばれる土器に近い地域型式でした。文様は全体的に縄文が施されていますが、中には口の近くに波形に紐を押し付けた文様もあります。また無文の土器も多くあります。

そして尖底と平底との両方があります。この土器とよく似た土器は、芝山町の宝永作遺跡で出ているだけで、本場にこの地域のみ分布する土器です。同時期と思われるものでは、成田市でも出ています。このように非常に狭い範囲にだけ分布する土器は、今のところこれくらいだけです。それではこれを作った人々はどうのような生活をしていたのか、周りと孤立していたのか、あるいは全く別の所から来たのか、いろいろなことが想像されます。この町からは、このような多くの謎を秘めた土器も出ています。



篠本城山遺跡出土の縄文早期の土器